

ShinEtsu

しんえつ・リポート

第131期 報告書

(2007年4月1日～2008年3月31日)



株主・投資家の皆さまへ

見通しに関する注記事項

当資料に記載の業績見通しは、現在入手している情報による判断および仮定に基づいた見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知お下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社および当社グループ会社の事業領域をとりまく経済情勢、市場の動向、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。ただし、業績に影響を与え得る要素はこれらに限定されるものではありません。



表紙の写真について

長野県の大正池（写真家・吉野 信 氏の作品／2008年信越グループカレンダー「NATURE AND LIFE 大地と生きる」より）



代表取締役社長
金川 千尋

信越グループは、
絶え間ない
経営努力を通じ、
企業価値の最大化を
追求しています。

2007年度は13期連続の最高益を更新しましたが、それを可能にした要因は？

半導体シリコン事業の業績が大幅な増益に貢献しました。これは、日々の営業努力の積み重ねに加え、需要の伸びを正確に捉えながら投資の決断を迅速に行い、的確に設備の増強を進めてきた結果です。

また、2007年の米国の塩ビ（塩化ビニル樹脂）の市況は決して良くありませんでしたが、その中で米国のシンテック社はフル生産を続け、2007年度も利益を上げて連結決算を支えたことが、信越グループが連結決算で最高益を更新できた大きな要因です。

さらに、シリコン樹脂、レア・アースマグネット、フォトレジストの各事業も増益に貢献しました。加えて、欧州での塩ビとセルロースの両事業も地盤を固め、収益を伸ばしました。当社グループは、多岐にわたる製品を持つのが強みであり、今後もそれぞれの事業の強化に努めていきます。

半導体シリコン事業への取り組みについて聞かせて下さい。

半導体シリコン事業では、世界中のお客さまから入る生の情報に耳を傾け需要の先行きを正確に捉えながら、生産能力の拡充に取り組んできました。お客さまからは、安定した供給能力に加え、最高の品質、正確な出荷業務などで高いご評価をいただいています。

また、当社はシリコンウエハーで世界シェア第1位の企業の責務として、単結晶や300mmウエハー生産の工場を分散化し、一つの工場が天災などの影響で止まっても、他の工場から供給を行うことができる体制を作りました。さらに、300mmウエハーでは、市場の動向を注意深く見極めながら、需要に確信が得られ次第、直ちに生産能力の増強を実施し、世界一の地位をさらに強固なものとしていきます。

半導体は市況の変化が激しい製品です。私は半導体市況の変調に備えて、2年前にウエハー製造設備の減価償却期間を3年と極めて短い期間で行うことを決断し、実行しました。

市況が厳しい時にこそ、企業の真の力が問われます。今後も、お客さまに安心して使っていただける高品質のシリコンウエハーの供給を行っていきます。

なぜシンテック社だけがフル生産を続けることができるのでしょうか？

シンテック社は、30年以上も常にフル生産、フル販売を行い、世界中のお客さまに安定して塩ビを供給してきました。

米国内の現在の市況は確かに良くありませんが、同社は良いお客さまとの関係をさらに堅固にし、米国内の販売でも健闘しています。また、同社はこれまで培ってきた海外のお客さまとの関係を生かし輸出を増やすなど、市況の変化に応じた速やかな対応を行っています。

こうした経営施策と日々の営業努力により、同社はフル生産、フル販売を維持することができました。

設備投資とM&Aの方針について聞かせて下さい。

信越グループが事業を伸ばしていくためには、設備投資が必要です。そのために毎日の市況に注目し将来の需要動向を見据えて、工場の立地の選定や原料調達などを多面的に比較しながら、設備投資の決断をしています。

また、当社は買収により企業価値が上がると判断した案件のみ、厳選してM&Aを行ってきました。現在、買収したいずれの事業も連結決算に確実に貢献しています。今後も当社が経営することにより経営を改革できるもの、既存の

事業との相乗効果が期待できる案件があれば、事業拡大策の重要な手法の一つとしてM&Aを進めていきます。

配当の方針を聞かせて下さい。

市況の変化が大きい半導体、塩ビなどを主力事業とする信越グループが、安定して業績を伸ばすことは決して容易ではありません。こうした中で、経営努力により13期連続で最高益を更新できました結果、増配も可能となり、今期は90円の配当を実施させていただくことにいたしました。これは10年前の1998年3月期の1株当たり8円50銭と比較して、10倍以上に相当します。

今後も当社の強みを発揮できる事業への投資を積極的に行い、日々の経営努力を積み重ねることにより、企業価値を高めていきたいと考えます。その上で、そうした経営努力の成果を株主の皆さまに適正に還元することを基本として、配当を実施していきます。

2008年度はどのように経営に取り組めますか？

どのような事業環境においても、企業価値のより一層の向上を目指していきます。私は若い社員に、「Boys be ambitious (少年よ、大志を抱け)」と言っています。この言葉は若い人たちだけに向けたものではなく、私も常に胸に留め、大きな志を持って日々の経営に取り組んでいます。

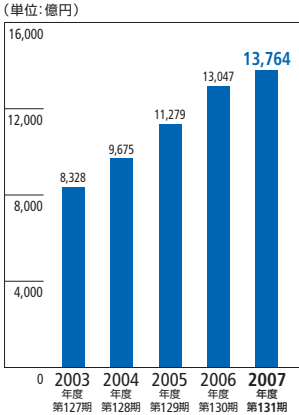
信越グループを永遠に伸び続ける会社にするために、引き続き毎日、毎月、毎年の仕事をしっかりと行い、実績を積み重ねていきます。現状に決して満足することなく経営に取り組むことにより、皆さまのご期待に応えていきたいと思います。

今後とも株主・投資家の皆さまの一層のご理解、ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

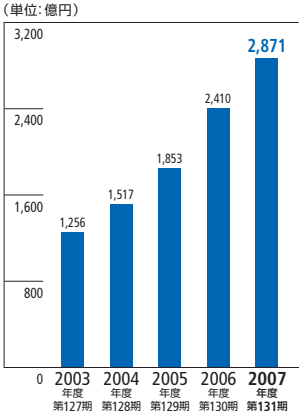
連結業績ハイライト

	(単位:百万円)		
	2006年度	2007年度	増 減
売 上 高	1,304,695	1,376,364	[5.5%] 71,669
営 業 利 益	241,028	287,145	[19.1%] 46,117
経 常 利 益	247,018	300,040	[21.5%] 53,022
当期純利益	154,010	183,580	[19.2%] 29,570
1株当たり当期純利益	357.78円	426.63円	68.85円
1株当たり年間配当金	70.00円	90.00円	20円増配
純 資 産	1,360,315	1,483,669	
総 資 産	1,859,995	1,918,544	

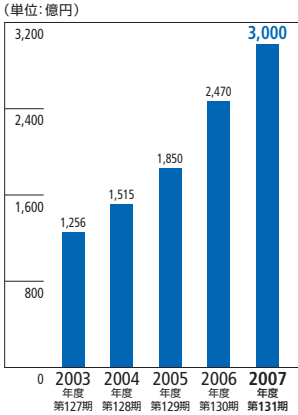
連結売上高



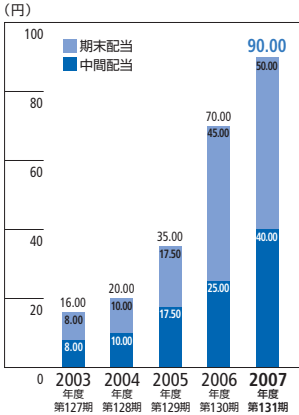
連結営業利益



連結経常利益



1株当たり配当金



シンエツは“いま”

信越グループは、素材メーカーとして高品質の製品を安定的に供給することを使命に、社会から信頼される企業を目指し、安全や環境、法令遵守を最優先事項として日々取り組んでいます。

シンテック社 プラクマン新工場の試運転を開始

米国のシンテック社はルイジアナ州プラクマンで、世界的に伸長している塩化ビニル樹脂の需要に対応するため、塩の電気分解から塩化ビニルモノマーやか性ソーダ、塩化ビニル樹脂までを製造する一貫工場の建設を二段階で進めています。このたび、第一期工事の設備が完成し、試運転開始の運びとなりました。第一期工事の完了後、新工場では年間30万トンの塩化ビニル樹脂の生産を行うことが可能になります。これにより同社の年間生産能力は230万トンとなり、米国最大のメーカーの地位を確固たるものとします。

プラクマン新工場では自社による原料生産、調達を自由に行うことも可能となり、ダウケミカル社との塩化ビニルモノマー調達の長期契約更新とあわせ、原料調達の多様化を進めていきます。



シンテック社 プラクマン新工場

直江津工場爆発事故に関する現状のご報告

2007年3月に新潟県の当社直江津工場セルロース製造設備で発生した爆発火災事故では、多くの皆さまに多大なご心配とご迷惑をおかけしましたことを、改めて深くお詫び申し上げます。

同事故による17名の負傷者は、同年9月末までに全員退院することができました。また、同製造設備は、一部復旧工事中の設備もありますが、安全対策を実施した上で操業を行っています。社外の専門家を交えた事故調査・安全対策委員会では、事故原因を静電気による粉じん爆発※に至ったものであると推定しています。当社ではこのような事故を二度と起こさないため、グループ全社で安全対策の見直しを行っています。

なお、製品の安定供給を図るためドイツのSEタイロース社でも医薬用メチルセルロースの工場建設を進めており、生産拠点の複数化を図ります。

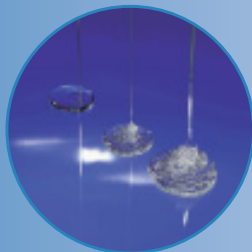
※ 空気中にある一定濃度の微細な粉末が浮遊し、火花などで引火して爆発を起こす現象。



社外の専門家による現地指導

事業概況

有機・無機化学品



<主な製品>

塩化ビニル樹脂／シリコン／メタノール／クロロメタン／セルロース誘導体／キーパッド／か性ソーダ／金属珪素／ボパール／合成性フェロモン

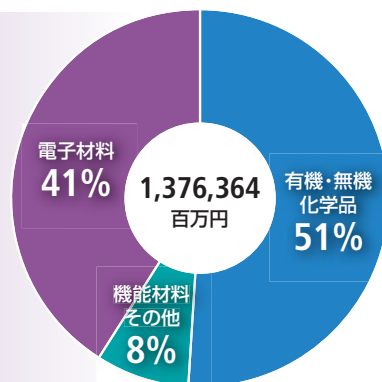
電子材料



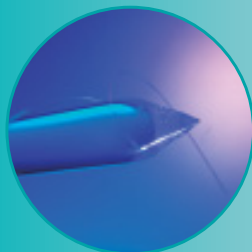
<主な製品>

半導体シリコン／電子産業用有機材料／電子産業用希土類磁石／フォトレジスト製品

売上高構成比



機能材料その他



<主な製品・業務>

合成石英製品／レア・アース／一般用希土類磁石／液状フッ素エラストマー／ペリクル／技術・プラント輸出／商品の輸出入／エンジニアリング事業

有機・無機化学品

●2007年度の事業概況

【塩化ビニル樹脂】 米国の住宅需要の低迷により同業他社が大幅な減益や赤字に転落する中、米国のシンテック社は、世界中の顧客への積極的な販売によりフル生産を継続し、高水準の利益を確保しました。オランダのシンエツPVC社は欧州での販売が好調に推移し、業績は伸長しました。国内事業は需要の低迷により厳しい状況が続きました。

【シリコン】 原料高騰の影響を受けたものの、自動車・情報機器・化粧品向けなどの特殊品を中心とした拡販に注力し、業績は伸長しました。信越ポリマー（株）の携帯電話用キーパッドは、価格下落の影響により、低調に推移しました。

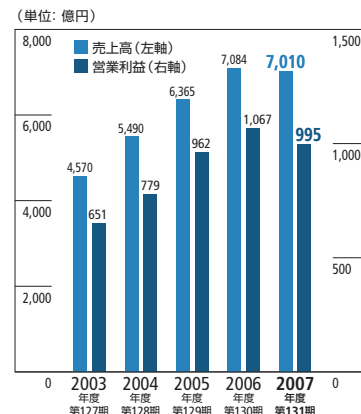
【その他】 セルロース誘導体は、2007年3月の直江津工場セルロース製造設備の爆発火災事故の復興途上にあり、国内事業は販売数量が前期より減少しましたが、ドイツのSEタイロース社は、2006年の生産能力の増強が寄与し、業績を大きく伸長させました。また、日本酢ビ・ポパール（株）は出荷が好調でした。

この結果、売上高は、前期に比べ74億3千1百万円（1.0%）減少し、7,010億2百万円となり、営業利益も前期に比べ72億5百万円（6.8%）減少し、994億8千1百万円となりました。

●今後の展開

塩化ビニル事業では、シンテック社で原料からの一貫生産工場の建設を進めるとともに、シンエツPVC社でもさらなる事業拡大を検討中です。シリコン事業では、新製品や新規用途の開発を促進するとともに、国内外の各工場の加工品の生産能力増強を行い、事業拡大を目指します。セルロース事業では、直江津工場に加え、SEタイロース社でも医薬用セルロース製造設備を新設し、生産拠点の複数化による安定供給を図ります。

売上高および営業利益



こんなところにも ➡ **シンエツ** ◀ **三洋アクア（株）**

業務用ドライクリーニング機「シリコンドライクリーナー」

ドライクリーニング用シリコン溶剤（オイル）は、環境への負荷が少なく人に優しいこと、仕上がりの風合いが良いこと、皮革やシルクなどの高級素材にも対応できることが特長です。

溶剤の回収効率がさらにアップし、ランニングコストも抑えられる三洋アクア（株）の業務用ドライクリーニング機「シリコンドライクリーナー」にも、当社のシリコンが採用されています。

※写真は22kgタイプのシリコン
ドライクリーナー「SCL-8221L」です。

●2007年度の事業概況

【半導体シリコン】 半導体デバイス需要が好調に推移する中、200mmウエハーはメモリーデバイス向けを中心に300mmウエハーへの移行が進み需要が減少しましたが、300mmウエハーの出荷が増加し、業績は大きく伸長しました。なお、早期増産とリスク分散のため、国内および米国の5カ所の生産拠点*で300mmウエハーの生産設備の増強を行い、当初予定より前倒しし、2007年夏に月産100万枚体制を構築しました。

【電子産業用希土類磁石】 パソコン、サーバーなどの伸びに支えられたハードディスクドライブ向けが堅調に推移しました。

【その他】 フォトレジストは、半導体デバイスの微細化の進展に伴いArFレジストが好調に推移したことなどから、業績は大きく伸長しました。

この結果、売上高は、前期に比べ853億5百万円(17.8%)増加し、5,646億9千6百万円となり、営業利益は、前期に比べ554億5千3百万円(52.0%)増加し、1,621億円となりました。

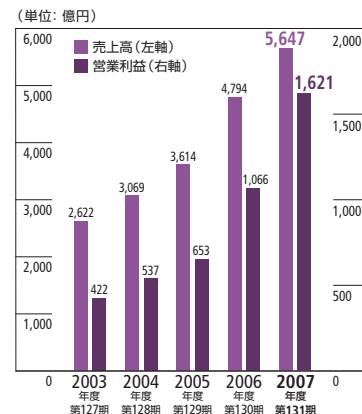
●今後の展開

半導体シリコン事業では、300mmウエハーの生産能力を、今後も需要に応じ増強していきます。200mm以下のウエハーは、特殊用途向けなどの高品質化により、競争力の強化に注力します。

なお、ウエハーの需要は引き続き拡大が見込まれていますが、需給の変化が生ずる可能性もあります。そのような市況の変化に備えるため、当社はすでにウエハー製造設備の減価償却期間を3年に短縮するなどの対策を講じています。

また、需要が拡大しているフォトレジストも、生産能力の増強を進めていきます。

売上高および営業利益



* 結晶・加工の生産拠点2カ所、結晶のみの生産拠点1カ所、加工のみの生産拠点2カ所



*8GBのmicroSDメモ리카ードの場合

こんなところにも→**シジェツ** (株) 東芝
microSDメモ리카ード

シリコンウエハーは、microSDメモ리카ードの主要部品であるNAND型フラッシュメモリにはなくてはならない素材です。

携帯電話用記録媒体の省資源、省スペースに貢献する(株)東芝のmicroSDメモ리카ードにも、当社のシリコンウエハーが使用されています。1.5cm×1.1cmというこの小さなメモ리카ード1枚で、高画質画像なら3,800枚、ワンセグ放送で約42時間の記録が可能となり*、携帯電話の小型化・大容量記録にも一役買っています。

機能材料その他

●2007年度の事業概況

【合成石英】 世界的な通信データ量の増大を背景に、光ファイバー用プリフォームが着実に需要を回復し、堅調に推移しました。しかしながら、液晶用大型フォトマスク基板は市況が低迷し、厳しい状況が続きました。

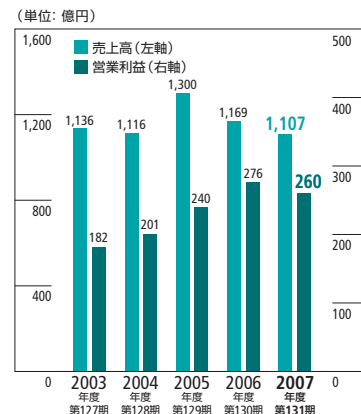
【その他】 一般用希土類磁石は、エアコン用の省エネルギー・モーターや自動車向けなどが好調で、業績は伸長しました。また、液状フッ素エラストマーやペリクルの出荷も好調でした。なお、一般商品の輸出入は減少しました。

この結果、売上高は、前期に比べ62億5百万円(5.3%)減少し、1,106億6千5百万円となり、営業利益は、前期に比べ15億9千2百万円(5.8%)減少し、260億1千2百万円となりました。

●今後の展開

省エネルギー家電、自動車向けなどへの採用が進んでいる一般用希土類磁石は、今後の需要の増加に的確に対応するため、能力増強に順次取り組み、事業拡大に注力します。また、レア・アース分離精製設備を新設することにより原料の歩留り向上を図るほか、2005年3月に開発した、従来よりも少量の原料で高性能な希土類磁石の製造が可能になる新製造法「粒界拡散合金法」による量産開始により、原料価格高騰の影響にも備えていきます。

売上高および営業利益



※この写真はイメージです。

こんなところにも ➡ **シシエツ** ◀ **富士重工業(株)**
地域内通勤用電気自動車「SUBARU R1e」

レア・アースマグネットは、メカトロニクス時代の高特性・高信頼性、さらに省エネ・小型軽量化の要請に応える高性能永久磁石です。

富士重工業(株)が、電池技術とパワーエレクトロニクス技術を組み合わせたエコカーとして開発を進めている、地域内通勤用電気自動車「SUBARU R1e」の駆動モーターにも、当社のレア・アースマグネットが使用され、静かで快適な生活空間と地域づくりに貢献しています。

連結決算の概要

連結貸借対照表

(単位:百万円)

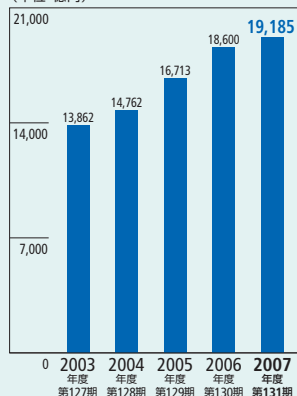
科 目	前 期 2007年3月31日現在	当 期 2008年3月31日現在
(資産の部)	(1,859,995)	(1,918,544)
流動資産	1,063,499	1,017,325
現金・預金	296,851	217,265
受取手形・売掛金	315,710	313,943
有価証券	207,178	184,519
たな卸資産	169,177	204,336
その他	74,581	97,260
固定資産	796,496	901,219
有形固定資産	545,408	654,643
建物及び構築物	174,413	180,566
機械装置及び運搬具	217,685	240,671
その他	153,309	233,405
無形固定資産	25,964	25,859
投資その他の資産	225,123	220,716
投資有価証券	176,150	150,492
その他	48,973	70,224
資産合計	1,859,995	1,918,544

(単位:百万円)

科 目	前 期 2007年3月31日現在	当 期 2008年3月31日現在
(負債の部)	(499,680)	(434,875)
流動負債	432,893	376,648
支払手形・買掛金	155,463	149,304
短期借入金	24,490	11,826
その他	252,940	215,517
固定負債	66,786	58,226
長期借入金	20,652	22,132
その他	46,133	36,093
(純資産の部)	(1,360,315)	(1,483,669)
株主資本	1,257,297	1,399,059
資本金	119,419	119,419
資本剰余金	128,177	128,177
利益剰余金	1,017,260	1,163,680
自己株式	(-) 7,560	(-) 12,217
評価・換算差額等	62,946	39,737
新株予約権	663	1,614
少数株主持分	39,407	43,257
負債純資産合計	1,859,995	1,918,544

総資産

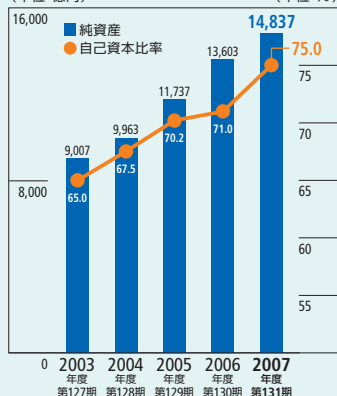
(単位:億円)



純資産／自己資本比率

(単位:億円)

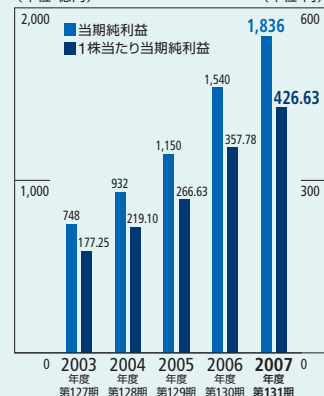
(単位:%)



当期純利益／ 1株当たり当期純利益

(単位:億円)

(単位:円)



※ 2005年度までの各事業年度の「純資産」の額は、「資本の部」の額を表示しています。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前 期 2006年4月1日 ～2007年3月31日	当 期 2007年4月1日 ～2008年3月31日
売 上 高	1,304,695	1,376,364
売 上 原 価	933,199	946,940
売上総利益	371,496	429,424
販売費・一般管理費	130,467	142,278
営業利益	241,028	287,145
営 業 外 収 益	20,618	30,440
営 業 外 費 用	14,629	17,546
経常利益	247,018	300,040
特 別 利 益	—	8,227
特 別 損 失	—	7,197
税金等調整前当期純利益	247,018	301,069
法人税・住民税・事業税	113,213	100,600
過 年 度 法 人 税 等	—	10,878
法 人 税 等 調 整 額	(-) 25,286	1,190
少 数 株 主 利 益	5,080	4,820
当期純利益	154,010	183,580

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前 期 2006年4月1日 ～2007年3月31日	当 期 2007年4月1日 ～2008年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	272,488	202,413
税金等調整前当期純利益	247,018	301,069
減 価 償 却 費	138,462	141,269
法 人 税 等 の 支 払 額	(-) 100,772	(-) 132,387
そ の 他	(-) 12,219	(-) 107,538
投資活動によるキャッシュ・フロー	(-) 185,183	(-) 248,626
有形・無形固定資産取得による支出	(-) 187,593	(-) 256,049
そ の 他	2,409	7,422
財務活動によるキャッシュ・フロー	(-) 61,833	(-) 53,534
社 債 ・ 借 入 金 増 減 額	(-) 41,175	(-) 10,839
配 当 金 の 支 払 額	(-) 18,290	(-) 36,580
そ の 他	(-) 2,366	(-) 6,113
現金及び現金同等物に係る換算差額他	5,197	(-) 3,165
現金及び現金同等物の増減額	30,669	(-) 102,913
現金及び現金同等物の期首残高	373,863	404,532
現金及び現金同等物の期末残高	404,532	301,619

当期連結株主資本等変動計算書 (2007年4月1日～2008年3月31日)

(単位:百万円)

科 目	株主資本					評価・換算 差額等	新株予約権	少数株主 持 分	純資産合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合 計				
2007年3月31日 残高	119,419	128,177	1,017,260	(-) 7,560	1,257,297	62,946	663	39,407	1,360,315
当期中の変動額									
剰余金の配当			(-) 36,580		(-) 36,580				(-) 36,580
当期純利益			183,580		183,580				183,580
自己株式の取得				(-) 7,895	(-) 7,895				(-) 7,895
自己株式の処分			(-) 580	3,238	2,658				2,658
株主資本以外の項目の 当期中の変動額(純額)						(-) 23,209	950	3,850	(-) 18,408
当期中の変動額合計	—	—	146,419	(-) 4,657	141,762	(-) 23,209	950	3,850	123,354
2008年3月31日 残高	119,419	128,177	1,163,680	(-) 12,217	1,399,059	39,737	1,614	43,257	1,483,669

単独決算の概要

貸借対照表

(単位:百万円)

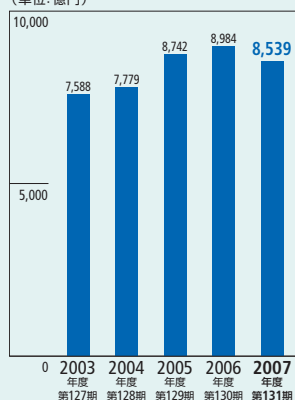
科 目	前 期 2007年3月31日現在	当 期 2008年3月31日現在
(資産の部)	(898,412)	(853,936)
流動資産	540,510	517,875
現金・預金	141,454	61,225
受取手形・売掛金	210,076	187,442
有価証券	75,496	125,102
たな卸資産	50,160	65,105
その他	63,321	78,998
固定資産	357,902	336,061
有形固定資産	110,567	119,106
建物及び構築物	35,610	36,939
機械装置及び運搬具	45,167	48,866
その他	29,790	33,300
無形固定資産	670	630
投資その他の資産	246,663	216,324
投資有価証券	90,874	62,391
関係会社株式	129,209	129,485
その他	26,579	24,446
資産合計	898,412	853,936

(単位:百万円)

科 目	前 期 2007年3月31日現在	当 期 2008年3月31日現在
(負債の部)	(226,112)	(184,830)
流動負債	212,961	176,045
買掛金	126,241	111,340
短期借入金	18,409	7,286
その他の	68,309	57,418
固定負債	13,151	8,785
長期借入金	2,524	6,227
その他の	10,627	2,557
(純資産の部)	(672,299)	(669,105)
株主資本	649,573	657,985
資本金	119,419	119,419
資本剰余金	120,771	120,771
利益剰余金	416,942	430,011
自己株式	(-) 7,560	(-) 12,217
評価・換算差額等	22,196	9,727
新株予約権	529	1,393
負債純資産合計	898,412	853,936

総資産

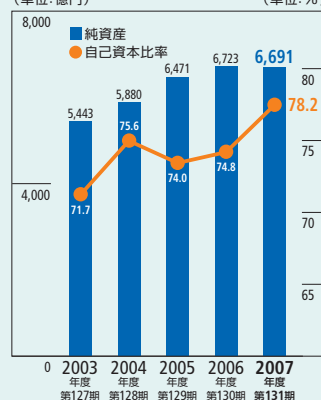
(単位:億円)



純資産／自己資本比率

(単位:億円)

(単位:%)



※ 2005年度までの各事業年度の「純資産」の額は、「資本の部」の額を表示しています。

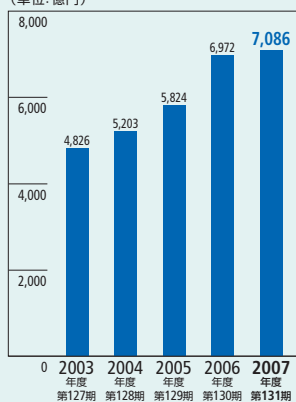
損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前 期 2006年4月1日 ～2007年3月31日	当 期 2007年4月1日 ～2008年3月31日
売 上 高	697,248	708,580
売 上 原 価	574,672	577,577
売上総利益	122,576	131,002
販売費・一般管理費	41,375	49,071
営業利益	81,200	81,931
営 業 外 収 益	6,593	16,700
営 業 外 費 用	7,719	6,102
経常利益	80,075	92,528
特 別 利 益	—	3,910
特 別 損 失	—	5,761
税引前当期純利益	80,075	90,677
法人税・住民税・事業税	34,760	33,470
過 年 度 法 人 税 等	—	10,878
法 人 税 等 調 整 額	(-) 5,770	(-) 3,900
当期純利益	51,085	50,229

売上高

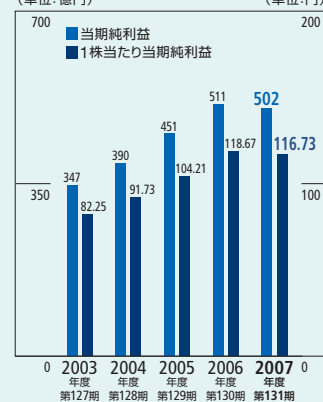
(単位:億円)



当期純利益／ 1株当たり当期純利益

(単位:億円)

(単位:円)



会社データ (2008年6月27日現在)

商 号	信越化学工業株式会社		
本 社	〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号 電話 03 (3246)5091 URL :http://www.shinetsu.co.jp		
設 立	1926年9月16日		
役 員	代表取締役社長	金 川 千 尋	取締役 フランク・ピーター・ポポフ※1 河 野 俊 二※1 金 子 昌 資※1 宮 崎 毅※1 石 原 俊 信 宮 島 正 紀 中 村 敦 荒 井 文 男 笠 原 俊 幸 小 根 澤 英 徳 轟 正 彦 中 村 健 秋 本 俊 哉
	代表取締役専務	森 俊 三 秋 谷 文 男 斉 藤 恭 彦	
	常務取締役	幅 田 紀 一 小 野 義 昭 高 杉 晃 司	
			常勤監査役 岡 田 理
	※1 取締役フランク・ピーター・ポポフ、河野俊二、金子昌資および宮崎毅は会社法第2条第15号に定める社外取締役です。	監査役	渡 瀬 昌 彦 福 井 琢※2 小 坂 義 人※2 永 野 紀 吉※2
	※2 監査役福井琢、小坂義人および永野紀吉は会社法第2条第16号に定める社外監査役です。		
営 業 所※	大阪支店、名古屋支店、福岡支店、北関東営業所(群馬県)		
工 場	直江津工場(新潟県)、武生工場(福井県)、群馬事業所／磯部工場・松井田工場(群馬県)、鹿島工場(茨城県)		
研 究 所	シリコン電子材料技術研究所、精密機能材料研究所(以上群馬県)、塩ビ・高分子材料研究所(茨城県)、合成技術研究所、新機能材料技術研究所(以上新潟県)、磁性材料研究所(福井県)		
従業員数	連結 20,241名(単独 2,590名)(2008年3月31日現在)		
主要関係社	シンテックINC.、信越半導体(株)、シンエツハンドウタイアメリカINC.、信越ポリマー(株)、S.E.H.マレーシアSDN.BHD.、シンエツPVC B.V.、信越エンジニアリング(株)、SEタイロースGmbH & Co.KG、シンエツハンドウタイヨーロッパLTD.、長野電子工業(株)、台湾信越半導体股份有限公司、直江津電子工業(株)、信越アステック(株)、三益半導体工業(株)、信越石英(株)、鹿島塩ビモノマー(株)		

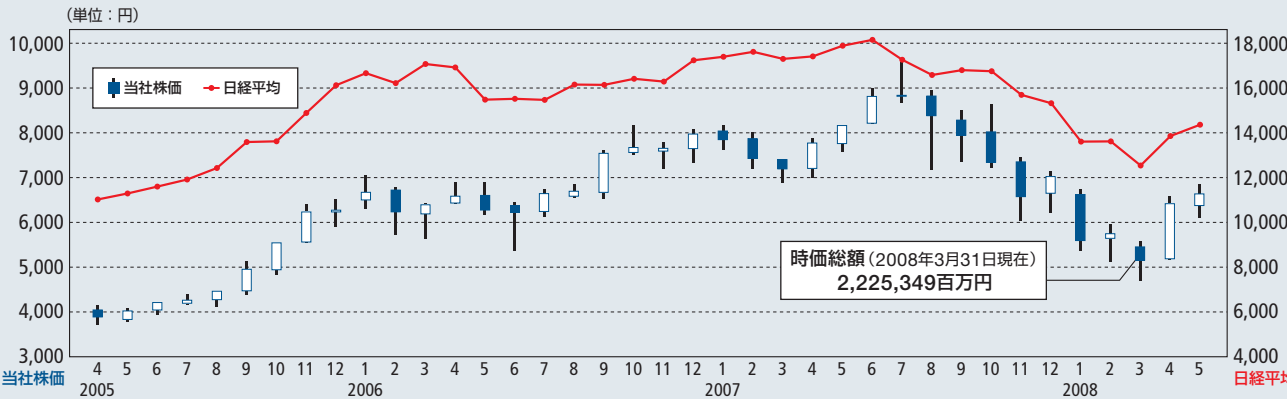
※2007年9月30日付で札幌営業所を閉鎖しました。

株式の状況 (2008年3月31日現在)

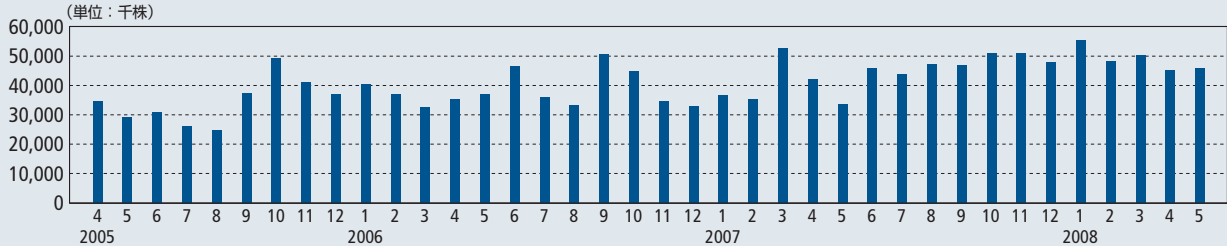
発行する株式の総数	1,720,000,000株
発行済株式総数	432,106,693株
(注)自己株式1,865,726株が含まれております。	
資本金	119,419,688,785円
株主の総数	64,808名

大株主(上位10名)			(千株未満は切捨表示)	
株主名	持株数	出資比率		
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	42,218	9.8	千株	%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	34,320	8.0		
日本生命保険相互会社	24,370	5.7		
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	14,436	3.4		
株式会社八十二銀行	11,790	2.7		
明治安田生命保険相互会社	11,529	2.7		
日本興亜損害保険株式会社	10,077	2.3		
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,095	1.6		
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー505103	6,467	1.5		
富国生命保険相互会社	5,600	1.3		

株価の推移



出来高の推移



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当受領 株主確定日	3月31日
中間配当受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会 公告掲載方法	毎年6月 電子公告により、当社ホームページ(http://www.shinetsu.co.jp/j/index.shtml) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告に することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
株式名義書換	株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (連絡先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル) 同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

単元未満株式の買取請求および買増請求

単元未満株式(100株未満の株式)の買取請求および買増請求は、上記の株主名簿管理人事務取扱場所および同取次所にて受付けております。ただし、株券保管振替制度をご利用されている場合は、お取引の証券会社にお申し出下さい。なお、買増請求は、3月31日および9月30日から起算してそれぞれ12営業日前から当該日までの期間はお取扱いができませんので、ご留意下さい。

株式取扱手数料	名 義 書 換	無料
	不所持株券の発行による新券の交付	1枚につき200円(消費税を含む)
	毀損、汚損による新券の交付	

上 場 取 引 所 東京・大阪・名古屋

- お 知 ら せ
1. 株式名義書換請求、住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙のご請求は、次の株主名簿管理人の電話およびインターネットのホームページで24時間承っておりますので、ご利用下さい。
電話 0120-244-479 (フリーダイヤル)
インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>
 2. 配当金を銀行預金口座またはゆうちょ銀行貯金口座へお振込みすることもできます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので、株主名簿管理人に指定書用紙をご請求下さい。

当社では、最新のIR情報のほか、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を、メディアを通して発信しています。



ホームページ: <http://www.shinetsu.co.jp>

ShinEtsu

信越化学工業株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号

電話 03 (3246) 5091 URL: <http://www.shinetsu.co.jp>

証券コード: 4063



この冊子は森林認証紙に
アメリカ大豆協会認定の大豆油インキで印刷されています。